

緒 言

荒木信人

大阪府立成人病センター整形外科

高齢化の進行，がん患者数の増加，分子標的治療薬や抗癌剤の進歩に伴う予後改善などにより，治療を必要とする骨転移患者数は増加の一途をたどっている．整形外科医は骨の専門家として骨転移治療に参画する責務があるが，実際の臨床現場ではその対応に苦慮することが多い．本特集では，日常的に骨転移患者を第一線で診療している著名な専門家の諸先生方に，最新の治療成績や方針決定の指針を解説していただいた．

片桐浩久先生には予後予測表の改訂版を執筆いただいた．新予後予測表は血液データや分子標的治療薬も考慮され，非常に有用である．是非日常診療への利用を行っていただきたい．

高橋俊二先生には骨転移増大の vicious cycle とゾレドロン酸，デノスマブの治療成績，そして，今後出現してくる骨転移に有効な新規分子標的治療薬について執筆いただいた．薬物療法による骨関連事象発生予防は今後ますます重要となっていくと考えられる．

杉浦英志先生には上肢と下肢の骨転移の手術治療について，予後と術式の選択方法，そしてそれぞれの自験例での成績を執筆いただいた．また，徳橋泰明先生には脊椎転移に対する種々の姑息的手術，腫瘍切除術の手術方法の図説とその適応，そして多数の自験例での治療成績を執筆いただいた．骨転移の手術療法で最も難しい「術式選択」に，この2編は必ず役立つはずである．

小泉雅彦先生には骨転移に対する放射線治療について，その適応と方法を最近の照射方法の進歩を含め執筆いただいた．城山晋先生には緩和ケアチームの役割，疼痛への対処，そして骨転移患者へのリハビリテーションにおける問題点について執筆いただいた．手術のみではなく，これらの保存療法についても整形外科医として知識を整理しておきたい．

骨転移診療では，原発科医師を含めた病院全体の診療システム構築も必要となってきている．本特集がそのシステム構築の中心としての整形外科医の糧となることを願いつつ，貴重な時間を割きご執筆いただいた諸先生に深謝申し上げる．